



変わるもの 変わらないもの



高野山大学

www.koyasan-u.ac.jp



91

講師派遣制度をご利用ください

各機関(本山・宗団・同窓会・宗務支所・高野山真言宗寺院等)さまへの、本学教職員の講師派遣は大学公務として取り扱っております。

【講師派遣お申込み手順】

1. 高野山大学公式ホームページの[高野山大学の概要]「講師派遣」から、「講師派遣依頼フォーム」より、必要事項(ご希望の講師名、日時、場所、講演テーマ等)を記載の上お申込みください。
2. 講師との調整がとれ次第、折り返しご連絡いたします。

【注意事項】

1. 講演料は、講師に直接お支払いください。
2. 交通費・宿泊費は、本学にて負担します(「高野山大学旅費規程」による)。
3. 講演が複数日あるいは長時間にわたる場合の条件は、講師と直接調整してください。
4. 大学を経由せずに、直接講師に依頼する場合は、この申し合わせの対象外とします。こちらのQRコードからもアクセスできます。>>

<http://www.koyasan-u.ac.jp/info/dispatch>



寄付金のお願い

高野山大学では、同窓生をはじめ、皆様からの寄付金を募集しております。これは、現在取り組んでいる、高野山霊宝館との連携や遠隔授業の本格的取組などをはじめ、大学での教育・研究活動の充実と質の向上を目的とした寄付金の募集でございます。

頂戴いたしました寄付金は
○大学の設備・備品費などの諸経費 ○地域との連携事業の経費
○合理的配慮の支援
などに活用させていただきます。
高野山大学では、学生や社会に選ばれる大学を目指し、「魅力ある大学づくり」をキーワードにこれからも様々な教育改革に取り組んでまいります。
皆様におかれましても、高野山大学へのご支援をこそよりお願い申し上げます。
この趣旨に賛同していただける方は、お手数をおかけいたしますが、高野山大学総務課(電話0736-56-2921、FAX0736-56-2746)までご連絡ください。
ご連絡をいただきました方には、大学から、
○寄付申込書 ○寄付金用振替用紙 ○返信用封筒
をお送りさせていただきます。なお寄付金は、一口2,000円以上とさせていただいております。
皆様のご支援とご協力を、重ねてお願い申し上げます。

【ご注意】

今回の学報に同封しております振替用紙は、同窓会費の振替にのみご利用下さい。

2025年度 入学者選抜概要

選抜(入試)日程(密教学科・別科)

※合格発表は本人宛郵送と本学にて掲示(10:00)。

試験種別	出願期間	試験日	合格発表
一般選抜Ⅱ期	令和7年2月7日(金)～2月26日(水)消印有効	3月8日(土)	3月14日(金)
一般選抜Ⅲ期	令和7年3月3日(月)～3月15日(土)消印有効	3月22日(土)	3月24日(月)
編入学選抜Ⅲ期	令和7年3月3日(月)～3月15日(土)消印有効	3月22日(土)	3月24日(月)
社会人編入学選抜Ⅲ期	令和7年3月3日(月)～3月15日(土)消印有効	3月22日(土)	3月24日(月)
留学生選抜Ⅱ期／留学生編入学選抜Ⅱ期	令和7年2月7日(金)～2月26日(水)消印有効	3月8日(土)	3月14日(金)
別科選抜Ⅱ期 密教専修コース	令和7年2月7日(金)～2月26日(水)消印有効	3月8日(土)	3月14日(金)

選抜(入試)日程(教育学科)

※合格発表は本人宛郵送。

試験種別	出願期間	試験日	合格発表
総合型選抜Ⅲ期	令和7年1月16日(木)～1月31日(金)消印有効	2月8日(土)	2月14日(金)
一般選抜Ⅱ期	令和7年2月7日(金)～2月26日(水)消印有効	3月8日(土)	3月14日(金)
一般選抜Ⅲ期	令和7年3月3日(月)～3月17日(月)消印有効	3月22日(土)	3月24日(月)
編入学選抜Ⅲ期／社会人編入学選抜Ⅲ期	令和7年3月3日(月)～3月17日(月)消印有効	3月22日(土)	3月24日(月)
留学生選抜Ⅱ期／留学生編入学選抜Ⅱ期	令和7年3月3日(月)～3月17日(月)消印有効	3月22日(土)	3月24日(月)

大学院選抜日程

※大学院は密教学専攻、仏教学専攻

通学制	出願期間	試験日	合格発表
大学院選抜Ⅱ期 修士課程 (博士前期課程コース・社会人コース・僧侶コース) 博士後期課程	令和7年1月24日(金)～2月14日(金) 消印有効	2月22日(土)	2月28日(金)

試験の詳細は大学ホームページから>>



高野山特別講演会 ー未来のWell-being社会への提言ー

11月16日(17日)にかけて、高野山にて「高野山特別講演会ー未来のWell-being社会への提言」を開催しました。

本講演会は医学や科学の見地から真言密教の祈りや教えを考え、実社会でどのように活用していくかをテーマに2023年から金剛峯寺と共催しており、今回で2回目となります。前回に引き続き講師として本学客員教授でハーバード大学医学部客員教授の根来秀行先生、同じく客員教授で精神科医の名越康文先生、本学副学長の松長潤慶先生が登壇し、今回は2日間でのべ60人ほどが参加しました。

1日目は講師陣がそれぞれの専門分野の立場から即身成仏の意味や瞑想が心身に与える効果、ウェルビーイングの概念と真言密教の関連性などについて講演し、コーディネーターに敷邦彦高野山執務公室長を迎えたパネルディスカッションを実施。参加者は宿坊で一夜を過ごし、2日目は朝から護摩参拝や阿字観の体験が行われ、午後からは森林セラピーとして奥之院を散策しました。



密教学芸賞に奥山直司先生

第62回密教学芸賞に、本学名誉教授の奥山直司先生が選ばれました。

奥山先生は東北大学大学院を単位取得退学した後、同大学の文学部助手、国立二関工業高等専門学校専任講師を務め、1994年に高野山大学文学部助教授に着任されました。2003年に教授となり、2017年から2021年まで副学長を務めました。

研究分野ではインド密教の研究からチベット文化史、さらには近代日本における仏教受容の研究に至るまで、数多くの研究業績を残しており、著書『梵語仏典の研究 密教経典篇』(共著、平楽寺書店)『評伝 河口慧海』(中央公論新社)、編著『高山寺蔵 南方熊楠書翰―土宜法龍宛1893-1922』(藤原書店)などを発表しています。

また、日本密教学会、日本印度学仏教学会、密教図像学会、密教研究会などの学会で理事・監事を歴任されています。

授賞式は10月10日、醍醐寺で行われました。

2025年度入学試験

一般選抜・編入学選抜・社会人編入学選抜

密教学科

一般選抜

Ⅱ期
出願期間：2/7 (金)～2/26 (水) 消印有効
試験日：3/8 (土)

Ⅲ期
出願期間：3/3 (月)～3/15 (土) 消印有効
試験日：3/22 (土)

編入学・社会人編入学選抜

Ⅲ期
出願期間：3/3 (月)～3/15 (土) 消印有効
試験日：3/22 (土)

教育学科

一般選抜

Ⅱ期
出願期間：2/7 (金)～2/26 (水) 消印有効
試験日：3/8 (土)

Ⅲ期
出願期間：3/3 (月)～3/17 (月) 消印有効
試験日：3/22 (土)

編入学・社会人編入学選抜

Ⅲ期
出願期間：3/3 (月)～3/17 (月) 消印有効
試験日：3/22 (土)

詳しくは「学生募集要項」をご覧ください。

サマanta氏に名誉博士号贈呈

インドオデイシャ州にあるカリニング工科大学・カリニング社会科学大学創設者のアチユタ・サマanta氏に名誉博士号を贈呈しました。

サマanta氏は1965年オデイシャ州生まれの教育者・慈善事業家です。2022年、本学一行がインドを訪れた際には現地で歓迎していただき、またインド人留学生に奨学金を寄付いただくなど、本学の国際交流、教育研究の発展への功績を受け、名誉博士号の学位を贈呈する運びとなりました。

贈呈式は7月25日に本学で行われ、乾龍仁高野山学園顧問からサマanta氏へ学位記と記念品が手渡されました。

サマanta氏は名誉博士の学位記を受け「私が32年間続けてきたことに評価をいただいたこと、そして仏教の上に成り立っている高野山という場所であっていただくことを光栄に思います。高野山も私の故郷であるカリニングも同じKから始まります。私の人生はKのつく言葉に大きな意味を与えられることが多く、これも何かの縁だと思えます」と述べられました。

その後、サマanta氏はニレーシユギリ在大阪神戸インド総領事とともに学内にあるアンベードカル博士像に献花しました。

アップル在大阪・神戸インド総領事が来校

2024年8月に新たに就任したインドのチャンドルアップル在大阪神戸インド総領事が9月9日に本学を訪問しました。

和歌山県とインドマハラシュトラ州は2013年に相互経済関係の促進拡大を目的とした覚書を締結しています。また同州は本学との関わりも深く、これまでも歴代の総領事や大使がたびたび訪れている他、「インド憲法の父」と呼ばれる同州出身のアンベードカル博士像の寄贈を受けて、毎年像への献花や講演会の開催などを通して交流を深めてきました。

アップル総領事は和歌山市で岸本周平県知事や県議会を訪問。その後高野山を訪れました。本学では添田学長と記念品を交換し、本学とインドの学生の交流や教育の発展について意見交換を行いました。



順風と逆風

明けましておめでとうございます。皆様お変わりなく新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

ご存じかと思いますが、昨夏、中国清華大学との間で、包括提携を結びました。清華大学は北京大学と並び、中国を代表する大学であり、習近平、胡錦濤主席等の出身校です。和歌山県が既に清華大学と提携しており、県の斡旋により実現いたしました。将来の中国を担う若い学生諸君に宗祖大師のことを知っていただく、願ってもない機会であると考え、7月に、同大学を訪問し、対面及びオンラインにて「日中文化交流史の巨人 空海」と言う題で講演する機会を得ました。通訳は同大学出身で、本学において博士号を取得した徐東軍先生にお願いいたしました。本学が東大先端研と合同で開催しております「高野山会議」にも興味を示しており、近代科学がもたらした文明の矛盾について、是非、空海の思想、密教の包容力をもつて、乗り越える必要がある、とおっしゃっていました。

教育学科の募集は、なかなか改善しませんが、4回生の内、高野山高校、大阪暁光高校、五條高校、粉河高校出身の4名が川崎市、堺市、大阪市、香川県の教員採用試験に合格しました。3回生も3名が1次試験に合格し、4年次での面接試験に備えています。このことを伝えるパンフレットを持って教員が地元高校を訪問すると、「よく、通りましたね!」と様に驚かれるようです。

日本と中国を代表する大学であります東大と清華大学の、本学に対する評価と、地元でのそれには大きなギャップがありますが、自分たちの研究、教育に自信を持って、世界的な評価を高め、地元での評判との落差を埋めていかねばなりません。



高野山大学 学長
添田 隆昭

院政期における歌合の研究



密教学科 専任講師
溝端 悠朗

歌合は、平安時代に隆盛した和歌行事のひとつで、歌人が左右のグループに分かれ与えられた題（テーマ）に沿って歌を詠み、番えて競わせるものです。しかし、創始された当初は「遊び」や「催し」が目的で、勝負の意識はそれほど高くはありませんでした。

しかし、院政期（およそ十二世紀）に入ると、歌合における勝負の意識は強くなつてきます。それは、『古今集』『後撰集』『拾遺集』という三つの勅撰集（三代集）を経て、和歌に詠まれるべき内容が詠み尽くされてしまい、もはや新しい和歌は詠めないのではないかと、当時の歌人たちが危機意識を持ったことに起因します。時を同じくして、日本は末法の世を迎えていました。仏法が目減りしていくと信じられた時代に、和歌も「末法」に向かつていくという危機感が、和歌を革新しようという歌人たちの意識を生んだのです。

そのなかで大きな役割を果たしたのが「歌合」だったと、私は考えています。歌合では、たがよい歌を詠めばよいのではなく、相手の歌に対して的確な批判を行い、自身の勝ちを主張しなければなりません。つまり、自らよい歌を詠むことはもちろん、「よい歌」とはどのようなものかという問題意識のもと歌を読む・解釈することが、歌合の参加者には求められたのです。その意味で「歌合」とは、切磋琢磨して和歌表現を革新していく試行錯誤の場であったと思われます。

さらに重要なことは、和歌を批評することば（評語）が創出された点です。歌合の参加者には和歌を詠むだけでなく読む（批評する）ことが求められるのでこれは当然の流れといえるでしょう。特に判定を下す人（判者）は、「なぜそのような判定を下したのか」という理由を表明する必要があります。これが「判詞」です。しかし、それまでの歌合では、判詞をどう書くかということは、あまり意識されていませんでした。判者を務めるような第三線の歌人たちは、判詞を書くために、評語を生み出す必要があったのです。

すなわち、院政期における歌合は、和歌の「実作」と「解釈」の両面を推進する場としての機能を果たしていたのです。一例として、当時を代表する歌人源俊賴と藤原基俊を取り上げてみましょう。

霜さえて枯れ行く小野の岡べなる櫓の朽葉に時雨降るなり

これは「元永元年（三二八）十月二日の歌合」において、基俊が「時雨」の題で詠んだ歌です。このときの判者は基俊自身と俊賴でしたが、俊賴は第三句「岡べなる」について、「すべらか」ではない、と批判しました。「すべらかは俊賴が創出した評語で、歌のなかで言葉が緊密に構成されていることを評価する語です。確かに、この歌で「岡べ」が詠まれる必然性はありません。しかし、実は「岡べなる」は、『万葉集』に由来する語なのです。基俊の狙いは三代集以前の、忘れられた万葉語を復活させることであつたのでしょうか。

このように、いかに和歌を革新する実践が行われたのか、そしてそれが同時代、あるいは後世にどのような影響を与えたのか、という点を研究しています。これを明らかにすることは、和歌史を把握するうえでも重要な点だといえるでしょう。

「持続可能な」体力向上に向けた研究



教育学科 専任講師
山本 司

文部科学省はすべての子どもたちの可能性を引き出し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させる「令和の日本型学校教育」の構築を目指した次世代教育の方向性を示しています。また新学習指導要領の理念において、「社会に開かれた教育課程の充実に向けて、学校には社会と連携・協働した教育の充実がますます求められていくことを強調しています。こうしたなか、体力低下に歯止めがかかっていないことや新型コロナウイルス感染症の影響が長期化したことで、次世代教育における体力向上に向けた取り組みを新たな視点で議論しなければならいと考えています。これまで学校・家庭・教育委員会、大学・地域・企業と協働で体力向上に取り組んできました。その中で学校、家庭、教育委員会、大学の事例を紹介します。

まず「教師の力量が子どもたちの体力を目覚めさせる」です。大阪府内で体力測定結果が最下位となった町の教育委員会と大学が協力して、町内全小中学校の教員を一堂に集めて体力測定の意義、測定方法、事前練習・授業への応用など、大学の教員を交えての研修を開催し、本格的な体力向上に向けた対策を講じました。教員の測定方法の理解度や実践方法に課題があること、体力測定を5年生のみに実施していたことを重点課題として取り上げ、体力測定はすべての小学校全学年番で行いました。事前練習において、シャトルランは1名の教員がベース配分の方法や頑張れば記録が向上することを児童と一緒に実感してもらいました。測定結果の前後比較

をするとすべての児童が平均で21%上昇し、体力の高かった児童のみならず低かった児童の伸びも大きくなりました。事前練習は体力を伸ばすために行うのではなく、教員と児童が真剣に体力について考える期間、児童本人の持つ最大発揮力を知るという意味で意義があります。立ち幅跳びでは、全国平均値をマット上にラインテープを貼り目標値として示し、体育館に設置したり、握力計を教室内に配備したりして、休み時間などいつでもチャレンジできる環境を整備しました。このような取り組みにより町内の小学校すべてにおいて平均体力測定結果は、大阪府内でトップクラスに位置するようになりました。小学校での取り組みが、中学校に進学した生徒も大阪府内でトップになるという連鎖を確認しています。小学校体力向上対策がいかに重要であるかがわかります。

次に「養護教諭と保護者の連携が生活習慣を改善する」です。体力と学力が生活習慣に大きく影響を受けることは周知のとおりです。小学校で全児童対象に4週間、毎日の生活週問を記録用紙に記録し、児童自身が課題を見つつけ、考えて実践し、評価と改善を繰り返す「OWNサイクル」を展開し、最初の1週間程度は毎日教員が生活指導をしてもらいました。これは生活改善プログラムであり、養護教諭が中心となりクラス担任と大学生が協働で、また保護者の同意と連携のもと行いました。その結果、起床時間は平日で8分、就寝時間は40分早くなりました。運動時間は平日、休日ともに増加し、1日のメディア視聴時間は平日で35分、休日で55分少なくなりました。休日の改善が大きかったことは保護者の協力が大きく影響していたと考えます。以上のように、生きる力の源である体力や健康について多角的な視点で研究をしています。現在は対象年齢を下げ、幼児期の体力に着目して研究も行っています。

第19回高野山大学フジキン小川修平記念講座講演会

7月6日に「第19回高野山大学フジキン小川修平記念講座講演会」を大阪市の大阪中之島美術館で開催しました。

2020年からの3年間は動画配信、昨年は東京にある高野山東京別院で開催し、大阪での開催は5年ぶりとなりました。今年度は建築家・藤本壮介建築設計事務所代表取締役の藤本壮介氏と本学の添田学長が登場。当日は約230人の方が聴講しました。

添田学長は「インド人のあの世、日本人のあの世」としてインドにおける輪廻転生の考えと日本人が古代から抱いている来世観について講演。「亡くなった人達はこの世が進んでいることをちゃんと知っています。万葉の時代の人達が感じていたように、亡くなった人は今生きている我々と同じ空間を共にしているというほうが事実に近いのかもしれないと思います。今一度、そのような来世観に立ち返ることも必要なのではないでしょうか」と述べました。

藤本壮介氏は「Between Nature and Architecture」の演題でブダペストの「ハンガリー音楽の家」や天守府天満宮飯殿など自身が携わってきたプロジェクトについてお話いただきました。建設が進む大阪万博会場の大屋根リングの構造とコンセプトについて紹介され、「世界の8割くらいの国がこの会場に来て、いろんな交流とアイデアが生まれていく。若い人達がこの現場を見た時のインパクトは大きいでしょうし、その光景を見た彼らがこれからの日本を作っていくと思います。6カ月間というのは長いようで短いですが、その記憶には人生を変えるくらいインパクトがあるのではないでしょう。ぜひこの歴史的出来事を体験してもらいたいです」と語られました。



高野山大学園祭「曼荼羅祭」

10月20日に高野山大学園祭「曼荼羅祭」を高野山キャンパスで開催しました。

キッチンカーなどの出店や書道部、仏画受講生の作品展といった恒例の催しの他、学生によるスタンブラリー、てんつくマン（軌保博光）さんによるトークショー、古本市などが催されました。

今年は初の試みとして、行道部による御法楽から始まりました。この日は気温が低く、豚汁など温かいメニューの出店が人気。宗教教育部の缶バッジ作り体験や教育学科の学生による模擬店には子どもたちが来店し、缶バッジを作ったり、輪投げで遊んだり、学生と二緒にイベントを楽しんでいました。また、絵本「えんとつ町のプペル」の世界観が楽しめるバスも展示され、多くの人がバスの車内で記念撮影していました。

毎年恒例のビンゴ大会では、人気のゲーム機やビーズソファ、テマパークのペアチケットなどの豪華景品が並び、当たった人たちはうれしそうに景品を抱えて帰りました。



令和7年度教員採用試験 教育学科の4名が合格しました！

令和7年度公立学校教員採用選考試験に教育学科の4回生4名が現役合格しました。合格したのは北口大夢さん（大阪府堺市合格）、佃慎太郎さん（神奈川県川崎市合格）、野崎巧光さん（大阪府大阪市合格）、水口竣太さん（香川県合格）です。

教員採用試験に向けて、教職支援センターの教員採用試験対策講座や面接対策講座に参加するなど、真面目に取り組んできた4名。本学での学びはどのように役立ったか尋ねると、「やはり学校現場体験です」と話してくれたのは佃さんと野崎さん。様々な学年を満遍なく体験できたことで、教育実習の前に心の準備ができた、と振り返ります。教育実習では子どもとのかかわりはもちろん、先生である大人とのコミュニケーションも非常に重要です。先生方ともすぐに良好な関係性を築くことができたのは体験学習のおかげだと話してくれました。北口さんは大学のプログラムの一環で参加したインド研修旅行が印象に残っているそうで、「誰一人置き去りにしない教育」を意識するきっかけになったと話してくれました。水口さんは「採用試験対策講座の面接練習で、先生方から細やかなアドバイスをもらえたことが合格に繋がったと思う。」と話してくれました。

理想の教師像について質問すると、学びを通して子どもに夢を持たせる先生北口さん、クラスの全員に目を配れる先生（佃さん）、自分の好きなことを好きと言合えるクラスを作れる先生野崎さん、楽しい授業を作れる先生（水口さん）と答えてくれました。

来年度から、高野山大学出身の小学校教育として、大学での4年間で身につけた力を生かし、大きく羽ばたいてくれることを期待します。

第97回学位記授与式

第97回学位記授与式を9月11日に高野山キャンパスで開催しました。今年度は大学院文学研究科修士課程密教学専攻と同じく通信教育課程のそれぞれ1名が修了、博士後期課程密教学専攻の1名が単位取得退学。式典に出席した2名に添田学長から学位記が渡されました。

添田学長は式辞で「私が学長になってから、いろいろな学会に参加したり、論文を読んだりする機会があり、その時にかつて勉強していたことが思い出されます。皆さんが勉強した長い年月は、学位記をもつて終わるものではありません。自分の中に生き続けます」と述べ、修了生を代表して修士課程の李倩さんが「この大学でかけがえのないたくさんさんの思い出を作りました。多くの経験は、間違いなく私たちの人生を支える糧となります」と答辞を述べました。



オープンキャンパス

密教学科では7月28日と8月18日に高野山キャンパスにてオープンキャンパスを開催しました。高校生とその家族を中心に、7月は約20人、8月は約30人の方にお越しいただきました。

学科紹介、模擬講義、試験に関する説明の他、学生ガイドによるキャンパスと壇上伽藍の見学ツアーや個別相談会を行いました。また8月のオープンキャンパスでは、図書館ツアーを実施。本学図書館が所蔵する「デルゲ版チベット大蔵経」に直接触れ、貴重資料の歴史や管理について知ってもらうプログラムを行いました。

10月20日には難波サテライト教室で密教文化コースに関心がある方を対象にしたオープンキャンパスを開催。オンラインでも配信し、約60人の方に参加いただきました。

こちらの日程では個別相談会も多くの方から申し込みがあり、コースの受講に関する相談や受験に向けた準備についてなどさまざまな相談がありました。密教文化コースのオープンキャンパスは1月にも開催します。



宗教教育行事

【夏季集団加行】

夏季休業期間中に、真別処円通律寺内事相講伝所加行道場において令和6年度夏季集団加行が行われました。今川泰伸和上に伝授阿闍梨をお勤めいただき、行者たちは約50日間の修行に二意専心しました。今季の行者は前期2名（3回生1名、2回生1名）、後期3名（4回生1名、3回生1名、別科2回生1名）でした。

また高野山大学大菩提院では、添田隆昭学長に伝授阿闍梨をお勤めいただき、女子行者が修行に専念しました。今季の行者は、胎藏界加行2名（3回生1名、科目等履修生1名）、護身法加行2名（4回生1名、1回生1名）でした。

【伝法灌頂】

10月29日から10月31日の間、大本山寶壽院道場において伝法灌頂が開壇されました。宮田永明法印御房に随い、四度加行を成満した学生たちが入壇しました。

今年度の入壇者は男子6名（4回生2名、3回生1名、2回生2名、別科2回生1名）、女子1名（3回生1名）でした。

【追悼法要】

11月21日に松下講堂黎明館で「高野山大学教職員並びに先輩物故者追悼法会」を厳修いたしました。法会中は壇上に過去帳と御位牌を安置し、本学教職員並びに先輩物故者の追善菩提、学内安穩、および学生たちの学業成就を祈念いたしました。

法会中は中曲理趣三昧にて執行し、法会後は奥之院御廟と大学墓所へ参拝いたしました。

日録

令和6年7月～12月

9月					8月					7月				
30月	23月	22日	21土	16月	14土	13金	11水	7土	1日	28日	27土	20土	15月	10水
後期受講登録変更期限					密教学科オープンキャンパス（河内長野）					密教学科オープンキャンパス（高野山）				
振替休日（開講日）・後期授業開始					密教学科オープンキャンパス（河内長野）					密教学科オープンキャンパス（河内長野）				
秋分の日					前期成績通知・再試験願提出日					前期授業終了（教育）				
大学院選抜1期					（高野山）28日・河内長野）29日					前期授業終了				
敬老の日					再試験・追試験日（密教）					前期授業終了				
					再試験・追試験日（教育）					前期授業終了				
					特別編入学選抜（教育）					前期授業終了				
					保護者懇談会					前期授業終了				
					学位記授与式					前期授業終了				
					通信秋期スクーリング（～19日）					前期授業終了				
					密教学科とオープンキャンパス（高野山）					前期授業終了				
					密教学科とオープンキャンパス（河内長野）					前期授業終了				
					密教学科とオープンキャンパス（河内長野）					前期授業終了				

12月					11月					10月				
24火	23月	14土	7土	1日	29金	23土	21木	20水	16土	4月	3日	31木	20日	10木
冬季休業					勤労感謝の日・学校推薦型選抜 博論提出期限					卒論・修論目次提出期限 通信学習支援会				
年内授業終了					総合型Ⅱ期・留学生・留学生編入Ⅰ期選抜(教育)					スポーツの日(河内長野開講日)				
教育学科オープンキャンパス(河内長野)					総合型Ⅱ期・編入・社会人編入・留学生・留学生編入 別科Ⅰ期(密教)					総合型・社会人選抜Ⅰ期(密教)				
					曼荼羅祭					／総合型・社会人・編入・社会人編入選抜Ⅰ期(教育)				
					／密教学科オープンキャンパス(難波)					後期科目受講取り消し期限				
					文化の日					振替休日(開講日)				
					高野山特別講演会(高野山、17日)					資格説明会(教育)				
					追悼法要									